

松山大学大学院言語コミュニケーション研究会

第 11 回例会 講演会

● 日 時：2018(平成 30)年 12 月 19 日(水) 受付:17 時 30 分～

● 場 所：松山大学 2 号館 211 番教室

※伊予鉄市内電車環状線「清水町」駅下車、徒歩約 5 分(松山市駅→鉄砲町駅約 20 分)

※大学ホームページ(<http://www.matsuyama-u.ac.jp/>)ご参照のこと

● 参加費：無料(学内外者問わず)

◆研究科長挨拶(18:00～18:05) (松山大学大学院言語コミュニケーション研究科長)

◆講演 (18:05～19:30)

題 名：音声学の魅力——卓立と韻律特性——

講 師：市崎 一章先生

※ 専門は英語音声学

序 言：人は生まれて初めてする言語活動は聞くことであり、それが話すことに繋がり、読む・書くはその後に行われるように、音声は言語活動の根幹をなすものです。世界には 4000—7000 の言語があると言われていますが、文字はなくても音声のない言語はありません。人類が言葉を発するようになったのが 10 万年前とすると、文字の誕生は紀元前 4 千年頃。書かれたものは残ってその時代の記録を残しますが、音声は消えていきます。残しようのなかった音声というものが、19 世紀後半のベルやエジソンによる発明でようやく記録・再生することが可能になり、その後、データ化して客観的にとらえることができるようになりました。今では、音声分析ソフトの発達で、誰もが外国語も自国語に瞬時に翻訳できるようになったものの、ただ、ちょっと複雑な文や細やかなニュアンスの違いまでは、完璧に処理しきれず、どうやらまだ限界があるようです。音声学は、個々の言語音が話者の発音器官によっていかにつくられるかを研究する調音音声学、つくられた音が聴者の耳に届く際の物理的な特性について研究する音響音声学、そしてその音が聴者の頭脳でいかに知覚されるかを研究する聴覚音声学に大別されます。音声的に際立っていることを卓立があると言いますが、あなたは会話で、ある部分を強調したい場合にどうしますか？講演では、音声分析ソフトを使った講師の実証的な研究を引き合いに出しながら、音声を科学的に分析することの面白さをご紹介できればと考えています。

【講師紹介】

市崎 一章(いちざき かずあき)

1960年生れ。香川県善通寺市出身。実家から徒歩5分の四国学院大学文学部英文学科入学、3年次に交換留学生として米国Arkansas州 The College of the Ozarksに留学。関西外国語大学大学院外国語学研究科英語学専攻(博士課程前期)修了。1990年宮崎女子短期大学講師。2012年呉工業高等専門学校准教授。2017年松山大学人文学部英語英米文学科教授。2002年日本英語音声学会(EPSJ)より“Information Processing and Prosodic Prominence in English: Intonation Patterns and Nuclei Embodied”に対して奨励賞を受賞。同年EPSJ理事に就任。2004年EPSJ創立10周年事業『英語音声学活用辞典』の編集主幹。同年EPSJ常任理事。2005年『英語音声学辞典』(成美堂)の編集主幹。2007年第12回EPSJ全国大会準備運営委員長。2012年EPSJ本部事務局長。2013年EPSJ副会長。2015年EPSJ創立20周年記念全国大会準備運営委員長。

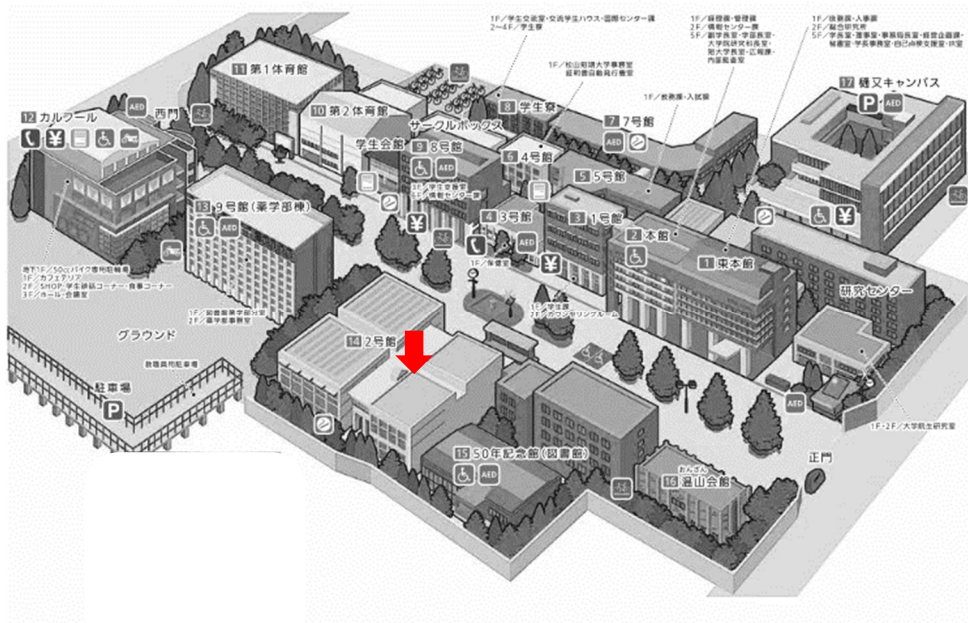


主な著書：『現代音声学・音韻論の視点』(共著、金星堂)。『これからの英語の研究と教育—連携教育の展望と課題—』(共著、成美堂)。『英語のイントネーション』(J. C. Wells 著 *English Intonation* の共訳)。EPSJ編『英語音声学活用辞典』(編集主幹、EPSJ)。『英語音声学辞典』(編集主幹、成美堂)など。

趣味：水石(すいせき：山や川で探し求めた一つの石に自然の景を縮図として見立て室内で鑑賞する道楽)

「花は枯れる。人は老いる。石は・・・不変。」

【キャンパスマップ】



当日は、混雑が予想されますので、お早めにご来場ください。

(開場 17:30~)

問い合わせ先:

松山大学教務部教務課 大学院言語コミュニケーション研究科担当

電話:089-925-7111(松山大学代表)